



森のなかま

2023年 1月号

NO. 175 (継続320号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

新たな森林インストラクターが誕生しました。

(文責：事務局長 山口久基)

昨年 11 月 26 日、神奈川県横浜西合同庁舎会議室にて、神奈川県森林インストラクター17期生の閉講式が行われ、33名の県森林インストラクターが誕生しました。

約1年半の座学と実習を経て、県森林インストラクターとして認定されたものです。

当日は、閉講式に先立ち、かながわ森林インストラクターの会佐藤理事長他3名が出席し、会の概要とネットワーク活動の講義を行いました。その場で、33名全員が当会に入会し、当会に新たな仲間が増えることとなりました。

午後の閉講式では、かながわトラストみどり財団新井専務理事様のご祝辞の後、神奈川県水源環境保全課井出課長様より、17期生に一人ずつ認定証が手渡され、33名がインストラクターとしての第1歩を歩み始めました。

新たに誕生した17期生森林インストラクターが、今後も更なる研鑽を積んで、様々な活動の場で活躍されることを期待したいと思います。



12月18日(日)には17期生向け部会活動説明会を開催し、出席した23名の新会員に対して部会・事業部・管理部門の紹介と活動参加への積極的なアプローチを行いました。来年度は、コロナ禍で停滞していたネットワーク活動等の会活動の増加が予想されます。フレッシュな17期生の活躍に期待したいと思います。



< 自然観察部会主催 かながわトラストみどり財団共催 >

「森林探訪」 湘南平から大磯の松林遊歩道まで歩こう

日時： 2022 年 11 月 20 日（日）

場所： 湘南平から大磯の松林遊歩道

参加者： 34 名

インストラクター： 小池⑫、河西⑯、西岡⑯、牧石⑮、加納⑯、久次米⑯、山口⑮、赤崎⑫

（記 写真 赤崎 さほり⑫）

湘南平（標高およそ 170m）のある大磯高麗山（こまやま）は JR 大磯駅から歩いてアクセスすることができる手軽なハイキングコースですが、良好な天然林が保全されており、その自然の豊かさで見晴らしの良さは一見の価値があります。

天気予報は昼から雨との事でしたが、何とか午後過ぎまで雨は降らず、観察を楽しめました。高来神社でオリエンテーリング後、紅葉の女坂を登っていきました。高麗山は、「航行目標保安林」に指定されており、船舶の安全な航行の目安となる保安林です。保安林にはいくつか種類



があり、そのほとんどが「水源かん養保安林（およそ 70%）」と「土砂流出防備保安林（およそ 20%）」が占めていますので、その希少性が伝わるかと思います。また、途中の浅間神社には、一等三角点があり、これは神奈川県内 8 か所のうちの一つになりますから、なかなか珍しいと思います。



植物としては、タブ、トベラをはじめとする温暖で海のそばに生育する植物、赤い実が美しいカラタチバナ、キチジョウソウ、オオアリドオシ、そして隔離分布で知られるモクレイシなど、興味深い植物と晩秋を彩る実が目白押しでした。午後の一旦解散後には希望者の方とこゆるぎ浜で海岸の防砂



林であるクロマツと旧東海道の松並木を観察し、建築物改修工事中の明治記念大磯邸園を見学して解散いたしました。



活動短 信

今回の掲載は R4 年 10 月 12 日から 11 月 4 日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

1 月(睦月)(旧暦 12 月師走)の

二十四節気と田んぼ(鎌倉)の様子

小寒 1/5 頃

寒の入り、セリが盛んに生え、キジが鳴くころ。農閑期には、籾殻燐炭などの作業があります。

大寒 1/20 頃

最も寒いころですが、春の息吹が。フキノトウが咲き、鶏が卵を産むころ。田んぼでは、苗床の準備です。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので)写真もあれば添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、☐ 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

☐ インストラクター① (○数字:期) ☐ 研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 県民参加の森林づくり

「真鶴町岩 間伐」

日 令和 4 年 10 月 12 日(水) 8:00~13:00 曇り

場 真鶴町岩(真鶴町県行造林)

参 63名

財 倉野シニアコーディネータ 藤本様

看 佃様

他 小田原森林組合 2 名(用具配備)

☐ L 上田⑩ 柏倉④ 齋藤⑧ 小笠原⑬

石川⑫ 徳岡⑪ 吉田⑪ 松石⑬

宮下⑫ 鈴木⑭ 木村⑭ 水野⑭ 16名

7 時 50 分 小田原駅西口集合 朝の打ち合わせ

8 時 40 分 受付締め切りバスで出発

10 時から駐車場でオリエンテーション

その後歩いて作業現場に向い現場入口で作業道具を装備し林道から現場に入り、各班に分かれて作業内容の説明を各班長が実施し作業についた。

各班とも 1 本目の作業には時間がかかっていたが、実質

作業時間 1.5 時間の中で 2 本の間伐が出来た。掛かり木になりフェリングレバーで処理する時、作業に夢中になって危険ゾーンに入っていく参加者が見られた。リーダーが注意し、立ち位置を指示するも、また夢中になって同じ動作をするなどヒヤリハットの事例が報告された。その他に事故けがはなく予定通りの作業量をこなして作業を終了することが出来た。道具の手入れをしたのち駐車場に帰り終わりの会が行われた。



雨模様の天候であったが、まとまった降雨もなく無事活動を終えることができました。

昼食後予定通り小田原駅に帰着、担当インストラクターは各班ごとに作業の振りかえりなどを含め作業報告を行った。



参加者人数は各班 11~12 名であるため1班 2 グループでインストラクター 3 名の作業体制をとった。班リーダーは作業グループの安全作業に対して指導できる立場でかかわることができ良かったと思われます。これからも危険を伴う作業の場合はインストラクターの適正配置を検討することが望まれます。
(記 写真 上田 啓二⑩)

森のめぐみの掲載は、
今月号はありません。
次掲載は 2 月号です。

森のめぐみ シリーズ

◆ 横浜市立上星川小学校 林業体験

日 令和 4 年 10 月 14 日(金) 10:30~12:20 雨

場 愛川ふれあいの村

参 大人 9 名、子供 5 年生 2 クラス 76 名、計 85 名

財 古舘様

イ L 牧石⑭、柏倉④、滝澤⑤、小野⑦、松山⑩、松本⑪、大橋⑪、西出⑫、岡村⑬、小林⑬、松浦⑬

当日は前日の天気予報（降水確率 10 パーセント以下）に反して 8 時頃から雨が降り出し、間伐が出来る状態では無く、当日予定の間伐活動は急遽中止となった。小学校、財団で調整していただき、焼き板製作のお手伝いと森林講和を実施した。



焼き板作成は愛川ふれあいの村スタッフより説明を受けた後⇒ノリを使用し文字やイラストを描く⇒バナーで板を焼く⇒ ブラシを使い水洗⇒水分の拭き取り⇒プレートにヒートン（金具）を取り付け⇒吊り下げ用の紐を付け約 1 時間で全員が完成。

森林講和は、間伐班の 8 班に分かれ実施。小学校よりの要望事項である「林業に関わる話」「林業体験の楽しみ」「プロの仕事」「森林整備」について林業体験入門資料等を活用し説明した。

道具については会場に展示された間伐鋸、ロープ、滑車、スリング、ヘルメット、下草刈り用の大鎌、トビ、について説明した。



最後に生徒代表より、いろいろ学んだ事を今後に役立てたいとの感想をいただき終了した。

（記、写真 牧石 稔⑭）

◆ 横横浜市立岡津小学校

環境・エネギ-学校派遣事業

～かながわ環境教室～

「水の中の生き物ウォッチング」

日 令和 4 年 10 月 20 日(木) 13:00~15:15 晴れ

場 岡津小学校(横浜市泉区) 学校近隣の川

参 小学 4 年生 26 名、教師 1 名、校長

イ L 井出①、高橋③、足立④、大原⑬、源島⑬

採取場所の「阿久和川 集いのまほろば」は、親水施設として整備され、普段から地域の方々の憩いの場、子供たちの遊び場になっている場所です。この学校では学級ごとに総合的学習のテーマを決めており、このクラスは「環境と生き物」をテーマに掲げ、今回の環境教室はこのテーマに沿った授業として実施しました。

1. 阿久和川で、手網などを用いて生き物を採取。
2. 採取した生き物を教室に持ち帰り、抽出と観察。
3. 抽出した生き物をタブレットで撮影し、モニターに映し出して全員で共有。ドジョウ、アブラハヤ、メダカのなどの魚。各種ヤゴやエビ。スッポン、カワナ、カゲロウなど、多くの生き物を見つけることができた。

本来なら、川の環境と生き物の関係、生き物のつながりについて話をする予定でしたが、時間的な関係で多くは出来ませんでした。しかし、地元の川で多くの生き物を採取し観察できたことで、生き物に対する興



味・関心がよりわいたのではないかと思います。またタブレットで多くの生き物を撮影したので、今後のクラスの授業で活用できるのではないかと思います。

当初の予定は 10 月 6 日でしたが、雨と寒さで順延した結果、当日は快晴の下、気持ちよく授業を行うことができました。（記、写真：井出 恒夫 ①）

かながわしずくちゃん Facebook は下記 URL で見ることができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして
<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 第 ENEOS 株式会社 川崎製油所 「ENEOS みらいの森」

日 令和 4 年 10 月 22 日(土) 10:00～12:00 くもり
 場 県立 21 世紀の森
 参 82 名
 県 水源事業グループ GL 武田様 岡田様
 イ L 上田⑩ 山崎⑦ 西出⑫ 大友⑬ 岡村⑬
 佐藤⑤ 鈴木⑧ 小笠原⑩ 松本⑪ 杉崎⑩
 上宮田⑪ 西岡⑭ 計 12 名

9:00 21 世紀の森駐車場に集合し、本日の作業内容と役割分担について確認をした。

その後作業班ごとに分かれて現場の下見確認を行い、使用道具の準備を行った。9 時半ごろから自家用者での参加者が集まり始めたので、駐車誘導を ENEOS 様スタッフに説明し実施してもらった。10:00 運動広場において開会式を行なった。加藤所長様のあいさつでは



ENEOS 社として、この活動が社会貢献事業の中で一番初めに実施されたもので 20 年以上続けてきたことを参加者に伝えていた。水源事業グループの武田 GL のあいさつに引き続きインストラクターの紹介、準備体操をしてそれぞれの班に分かれて活動場所に向かった。

作業を始める前に担当インストラクターは作業手順、安全作業の留意点などを説明した後作業に取り掛かっ



た。

枝打ちは全体で 6 列の作業が終了した。また、林縁付近に侵入してきている竹の除伐も行った。

竹林整備は皆伐を前提に伐採・枝払い・集積と一連の作業を連続して行い片づけながら整備していった。

クラフト・自然観察班は、家族連れのグループが多かったため、A 班、B 班に分けてクラフトの時間を調整しながら実施した。クラフト製作は 21 世紀の森担当者が指導してインストラクターがサポートする体制で実施し、作業終了後森林館の見学と森林館周辺で秋の森を楽しんだ。運動広場の下にあるカツラの木の芳香があたり一面に漂い秋の森の雰囲気を感じてもらえたと思います。事故、怪我などなく活動は終わり 13 時前に参加者は帰路に着いた。

(記・写真 上田 啓二⑩)

◆ 県民参加の森林づくり活動 (除伐)

日 令和 4 年 10 月 23 日(日) 9:00～12:20 晴れ
 場 南足柄市内山(21 世紀の森)
 参 54 名
 財 藤本様
 看 青木様
 スタッフ 21 世紀の森 野村様
 イ L 牧石⑭、相馬⑤、小野⑦、山崎⑦、齋藤⑧、内野⑨、
 松本⑪、岩田⑭、大友⑬、岡村⑬、久慈⑬

令和 4 度 第 1 2 回目の県民参加の森林づくり活動を県立 21 世紀の森指定管理者と共催で実施された。

除伐活動は運動広場横の広葉樹植栽地(2001 年植樹：千年樹植樹「21 世紀の森」の集い)で行った。

9 時 30 分受付終了であったが、参加人数調整のため受付終了を 5 分延長し、9 時 35 分よりオリエンテーションを開始。挨拶、インストラクター紹介、作業内容、全体的な注意事項の説明が行われた後、参加者全員でストレッチ体操を実施。班毎に用具を身に着け、9 時 50 分より現場へ移動開始。一部斜面が急な場所が有り慎重に区分けされた現場に移動し、除伐と林内整備作業を実施した。

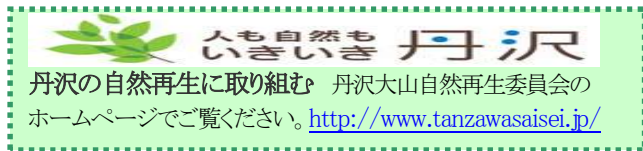


除伐した青木、竹、集めた落枝で「カントリーヘッジ」をつくり、斜面に綺麗にまとめた。

フェンスに巻き付いたツルの取り除き作業も行われ、植栽地全体が明るくなり見違えるほど綺麗になった。

スケジュール通り、12時に終了し用具の手入れを実施した後、参加者に足柄茶・入浴割引券が頒布され最後に足柄茶を持ち参加者全員で記念撮影が行われ無事閉会した。

(記、写真 牧石 稔⑭)



◆ 日揮グループ水源林保全活動

日 令和4年10月29日(土) 11:00~14:30 晴れ

場 塚原水源林 日揮グループ癒しの森

参 大人 30名 小人 1名

県 神奈川県 緑政部 水源環境保全課 岡田様 武田様

イ L上宮田①

間伐担当 : 佐藤⑤、鈴木⑧、大友⑬、岡村⑯

下草刈り担当 : 山崎⑦、内野⑨、小沢⑩、松本⑪、西出⑫

秋晴れの下、晴れやかな気持ちで活動ができました。参加者のバスは行楽日和の道路渋滞に巻き込まれ、到着が遅れてしまいました。バス到着後すぐに集合し、日揮グループ様の挨拶、インストラクターの紹介、準備体操(日揮様が独自に作った効果的な体操)に続き道具の配備・装着を行い、間伐班と下刈り班の作業グループに分かれて、各々の作業場所へと移動しました。

なお、参加者の大部分は外国人(インド、フィリピン、シンガポール等)で占められていることから、日本語一辺倒ではなく、片言の英語、身振り手振りを用いるとともに通訳を介しての説明・作業となったために、やや戸惑いがありました。これもまた経験の一つでした。

間伐班は2班(各班:5名+スタッフ1名)

私の班においては、経験のない方が多いため、間伐の説明のほか、鋸の使い方(押して切るのではなく、引いてきる)の説明も行いました。作業は交代しながら進め且つ補助しながら行いました。その結果、上手に曳ける様になりました。掛かり木となりましたが、全員でロープを引きなんなく伐倒することがで

きました。その後、枝払い・コースター作りへと進みました。コースター作りでは鋸の使い方にも慣れてきたのか、鋸を引く音が軽やかなリズムとして聞こえていました。また、人によっては何度もコースター作りにチャレンジし楽しんでいました。なお、下草刈り班からの希望者も途中参加し、各々の作業に夢中になり、出来栄に満足していました。

下刈り班は5班14名+スタッフ5名

草刈りの時期が遅かったので草たちも大きく、手強くなっていました。初夏には美味しいクサイチゴ(バライチゴ?ノイチゴ?)もトゲも固く大きくなっていました。雑草も大きく固く絡みつきとてもやりにくくなっていました。草に埋もれている枯(腐)木が足元の邪魔をしていました。

そして、大鎌は皆さん初めての経験なので、安全と使用方法を日本語混じりの英語で作業動作を説明しました。皆さん”のみこみ”が早く、そして若く体力があり、私達インストラクターが心配していたよりもはるかに作業が捗りました。この日に使用した主な英語は

・鎌は右利き用です The sickle is right-handed.

・移動時等は鎌のカバーを装着する Wear a sickle cover when moving、

・大振りしない Don't swing

・右足を前にして自分の左側に向けて刃を動かす Move the blade towards your left side with your right foot forward

・刃先を下げない Don't lower the cutting edge

作業終了後、道具を清掃・収納、昼食を取り、閉会時挨拶を行った後、水源を後にしました

なお、作業は安全目標「近接作業・足元注意」をもとに行なった結果、怪我もなく無事に終了しました。

(記 岡村⑯(間伐)・松本⑪(下草刈り))

写真提供 日揮様)



◆ 「プリウス森木会」

やどりき水源林トレッキング体験会

日 令和4年11月3日(木祝) 10:00~12:30 快晴

場 やどりき水源林

参 大人49名 子供5名(レクサスのユーザー様)

スタッフ 神奈川トヨタ自動車(株)社員様
(15名程)

看 佃様

イ L内野⑨、上宮田⑪、牧石⑭、大友⑯、菊池①、
杉崎⑩、野牛⑧、滝澤⑤

11月3日は晴れの特異日と言われる通りの快晴。本日は木々が急速に色づいてきたやどりき水源林で、周遊歩道Aおよそ2時間のトレッキングです。秦野峠林道ははじめ起点より少し下にあるキャンプ場に集合された方たちを水源林ゲート前でお出迎え。到着順に班に分かれた6~10名を一班として順次ご案内しました。



出発前にストレッチ、管理棟前の看板でコース案内と森林再生パートナーの説明をして出発。途中「森は水のふるさと」の看板を説明してから、この看板をバックにトヨタ自動車の社員の方による班ごとの写真撮影。(プリウス森木会の看板は周遊歩道Bにあります。)

本日はゆっくり観察する時間は無いのですが、それでも丹沢の生い立ちを示す枕状溶岩の前で解説をし、この時期に咲いているキッコウハグマ、シロヨメナ、コウヤボウキ、リンドウ等を見ていただき、前の班の動きと調整をとりながら各インストラクターが得意としている分野で説明しました。途中で業者の方が径路を直してくださっている場面にも遭遇し、この方たちの仕事で遊歩道が歩きやすく整備されていることも理解いただけました。

紅葉とスギやヒノキの緑色と青い空のコントラスト、溪流の水の色や流れの音、鍋割山や相模湾と大島の眺望、そして時折吹く風で木々の葉が舞い落ちる場面も楽しめた半日でした。このあたりの山にも登るけれど、こんな身近にすばらしい所があったのだと再認識してくださる方もおいででした。小さなお子さんもしっかりコースを歩き切りました。また、本日最高齢89歳のご夫婦には別ルートでご案

内し、その好奇心に押されて担当インストラクターは知識を出し切ったとか。

水源林ゲート前でお別れした参加皆様はトヨタ自動車のスタッフに伴われてキャンプ場へ戻り、このあと焼き芋やピザなどで昼食。午後はインストラクターが事前調達した、枝打ちで落とされたスギの枝を利用してリースを作るのだそうです。(記 滝澤洋子⑤ 写真 内野ミドリ⑨)

◆ 横浜市立太尾小学校

環境・エネルギー学校派遣事業～かながわ環境教室～

「水の中の生き物ウォッチング」

日 令和4年11月4日(金) 10:00~12:30 晴

場 太尾小学校(横浜市港北区/校内のビオトープ)

参 小学5年生33名、教師1名

イ L井出①、足立④、内野⑨、國弘⑭、石垣⑮

本校のビオトープは、全国学校ビオトープコンクールで表彰されたこともあり、日ごろから父兄、ボランティアの方々と整備され、授業でも活用されています。今回は、下記手順で授業を行いました。

1. 校内ビオトープで、手網、タモ網を用いて生き物を採取。
2. 採取した生き物を教室に持ち帰り、抽出と観察。
3. 抽出した生き物を同定し、タブレットで撮影。メダカ、カダヤシなどの魚。各種エビなどの生き物を見つけることができた。
4. まとめの講話では、なぜビオトープが必要か、ビオトープの目的、生き物のつながり、さらにSDGsにも話を広げて解説を行った。

本授業で、生き物に対する興味・関心がよりわいたのではないかと思います。



またタブレットで多くの生き物を撮影したので、今後のクラスの授業で活用できるのではないかと思います。(今回見つけた生き物をポスターにして掲示し、校内で共有することを提案しました。)

今回の授業をするに当たって子供たちから多くの質問をもらいました。今後これらの質問に答えることで、子供たちの関心をより深めていけるよう、努めていきたいと思っています。

(記、写真：井出 恒夫 ①)

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

12-2 月は「森の案内人」はお休みです。

3 月からの森の案内人募集を始めました。今年からの新しいメンバーも加わり、案内人一同皆様の訪問をお待ちしています。

●やどりき水源林問合せ:

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

(かながわ森林インストラクターの会)

ホームページ <http://www.forest-kanagawa.jp>

E-mail k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

(@は半角@に置き換えてください)

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP 担当: 大友 博道)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: kshinrin_pr@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小林 照夫

Mail: ts pocket17@gmail.com

原稿は随時受付けています。

編集後記

★庭の紫木蓮の大きな葉がバサバサと落ち、夏にはあれほどたくさん茂っていた樹もすっかり裸になったと思ったら、

枝の先っぽに大きな白いふさふさな綿毛のついた冬芽があちこちに付き始め、まるで蕾で満開になっているようです。

なんとなく寂しい冬の寒空の下、清楚な彩を与えてくれています。

大雪での交通渋滞や列車の不通など忙しいこの頃ですが自然はきちんと自らの時を刻んでいますね。(吉田)

★年末は、コロナに対して慣れてきたのか? 街に出るとイルミネーションが飾り付けられ、とても賑わっているように見えました。マスクを着けながら人と対話していくのも慣れましたね。いつまでこんな状態が続くのだろうと、この先行きがよく判りませんが、コロナと上手く付き合っ、コロナ禍前の生活に戻れるといいですね。

(笠原)

★新しい 2023 年を迎え、心新たにどこへ行きたいところですが、最近、正月のありがたみもなくなりましたね。それはさておき、今年は、17 期生インストラクター 33 名を迎え、森林インストラクターの会に新しい風を吹き込んでもらえることを期待しましょう。(黒川)

第 14 回 森林文化講演会

<森林文化部会主催>

演題: 森林環境教育はなぜ必要なのか

～森林を知り体験することの重要性を考える～

講師 杉浦 克明 氏

日本大学准教授 生物資源科学博士

生物資源科学部 森林資源科学科 森林共生学研究室

日時 2023 年 2 月 11 日 14:00～15:30 (開場 13:30)

場所 藤沢市南藤沢 22-7 第一相澤ビル (藤沢駅南口 OPA 隣)

会費 500 円 定員 70 名 (先着順)

申し込み: 1. お名前 (フリガナ) 2. ご住所 (市まで) 3. 年代

4. 所属団体があれば団体名 を明記の上

s-instb12@jcom.zaq.ne.jp

担当 菊地 まで申し込みください。

締切 1 月 31 日 (火)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで 2000 円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から 12 回/1 年間お届け致します。



かながわ森林インストラクターの会『緑の募金』の支援団体でも取組んでいます。全国で 5 番目/NPO 法人で初めて委嘱されています。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ

阿藤壽孝 長尾晴子 竹内明彦

柳澤千恵美 小林照夫 中澤良夫

支援: 大原正志 江頭淑子